

総領事からの活動報告(2012年1月)

2012年1月15日

在マイアミ総領事

川原 英一

昨年、日本は大変な一年でした。今年は辰年に因み、日本の更なる復興を心より願っております。皆様、本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、1月上旬から中旬の当館活動の一端を御報告致します。

◎鹿児島・マイアミ市国際交流委の皆様との新年懇親会

1月5日、鹿児島市と姉妹都市交流を長年続けておられるマイアミ市の交流委員会メンバーの皆様を公邸にお招きして、懇親会を行いました。鹿児島市との交流は22年目になりますが、昨年は、春秋の2回、鹿児島市の中学生グループの訪問があり、ホストファミリー・プログラムなど活発な交流があり、特に、昨秋には、3年半ぶりに森鹿児島市長御一行のマイアミ市親善訪問もあって、同委員会の皆様が大活躍をされたことに対して、当方の感謝の気持ちをお伝えしました。懇談では、マイアミ市高校生の鹿児島市への派遣予定や当地に本社のあるロイヤル・カリビアン社の豪華大型クルーズ船による鹿児島湾への頻繁な寄港のこと、又、最近になり映画化がされたのですが、約45億年前の太陽系がどのように形成されたのかを調査するため、イトカワという小惑星から粒子サンプルを回収して、7年間、60億キロの長旅後に地球に帰還した日本の惑星探査機「はやぶさ」について話題が盛り上がりました。



◆森上でのお正月行事

1月8日、デルレイビーチにある日本文化関連の大型公立施設である森上美術館・日本庭園を訪問致しました。お正月らしく、御餅つき、羽根つきなどの行事等の他、本格的な作りの茶室では、茶会デモンストレーションがあり、三堀夫人(副理事長)のユーモアあふれる解説付きで、地元の皆さんと一緒に大変に興味深く拝見しました。同デモンストレーションは、当地の方に大変人気があり、次の回を待つ長蛇の列が出来ておりました。また、6つの日本庭園へも足を運びましたが、訪問客が多くて庭園内が大変に賑わっており、まるで、日本の正月の神社参拝道のような混雑ぶりでした。三堀ジェームズ副理事長によれば、この日だけで、訪問客にボランティアなどを含めて8千名近い方が来場されたとのことでした。

◆デルレイ・ビーチ市長との懇談(1月6日)

京都府宮津市と姉妹関係にあるデルレイ・ビーチ市のマクダフイー市長(写真右側から二人目)とシュミット前市長(左端の方)を公邸にお迎えして懇談しました。今年2月中旬に宮津市をご夫妻で訪問される予定である同市長、同行予定で宮津市との姉妹都市交流委委員長でもある前市長のシュミットさんから、訪日の際、宮津市との関係者とどのような具体的な話題について懇談を予定されているのか等、お伺いできました。



◎米国南東部会(7州)フロリダ支部会長他との懇談(2012年1月9日昼):

1月9日、米国南東部会(7州の経済界・地方政府団体)フロリダ支部のジョージ・ゲーベル会長、キース・ノルデン同副会長、ウッドワード事務局長と懇談をしました。まず、昨年11月15



日、州都タラハシでの「日本・フロリダ・サミット」を主催して頂き、州政府関係者と共に和歌山県知事や当方の講演機会を設けて頂いたことに対して御礼を申し上げました。また、昨年秋に東京開催を予定されていた日本の経済界人と米国南東部7州の経済界人との合同会議が、3.11の影響で、今年秋に延期されたことを受けて、同合同会議の日程・準備状況・想定議題などについて情報交換をしました。

た。

ゲーベル会長は、ジャクソンビルを拠点に活躍される海運保険分野の弁護士であり、日本の船会社数社がお世話になっているとのことでした。当方からは、日本企業の最近の動向、当地の日本企業駐在員のためのビジネス環境整備の具体的要望内容や、今年3月末に予定される米国桜寄贈100周年事業などについてご説明を致しました。

ドラール市長との懇談メモ

1月10日午後、デルムデス・ドラール市長をお招きしました。ドラール市は、マイアミ空港近くにあり、健全財政を維持しており、市長さんは、同市の創設当初から今年11月迄で、丸8年間の任期を全うされることになります。昨年10月、当方が市長室でお会いした際、市長からは、ウィリアム・デミング(1950年代に統計・品質管理の手法を日本に導入された方で、デミング賞は今もあります)の活躍の話をされ、又、日本企業の現場での「改善」方式を見習いたいとの話があり、とても強い印象を受けた方です。市長となる前は、



法律事務所を経営されておられました。市民のニーズに応える市長として、同市が運営するHPには、市長へ直接意見を伝えるコーナーがあり、毎日、市長自らが、数百件のメールをみて、良い内容には、直接本人に電話をしているそうです。こうした草の根からの市長活動を通じて、沢山の市民から慕われる市長としての今日があります。市職員の人事評価も、本人に目標を設定させて、一定期間後、評価を行う方式を導入していますが、このような取り組みを行う自治体市長は意外に少ないとお話もありました。

フロリダ州議会の開催とスコット知事演説

1月10日からフロリダ州議会が始まりました。今年は、11月に米大統領選があるため、2か月早めに州議会が開催されました。茶会党(ティーパーティー)の支持を得て知事として当選し、就任後1年を経過したスコット知事による34分間の州議会演説が行われました。



動画で議場内の様子をみていて日本の議会との違いを感じたのは、知事演説の冒頭、恒例であろう上下両院長への呼びかけばかりでなく、同席していたスコット知事の御家族、娘婿、生まれて8週間の初孫(オーガステ君)への呼びかけ・紹介の場面もあり、知事の議会演説は、家族的な暖かい雰囲気と拍手に包まれていたことです。野党である民主党議員数が上下両院とも3分の1未満という事情も背景にあるのでしょうか。同知事が明らかにした3つの優先課題は、雇用創出、質の高い教育の維持、フロリダの経済成長と新たなビジネスを呼び込むため、生活コストを低く維持することでした。知事の選挙公約の一つであった7年間で70万人の雇用創出については、知事就任1年目にして13万人以上の雇用創出がありました。州財政赤字の中で、質の高い教育への支出と3百万人と言われる貧困層に対する医療費補助の削減提案が、どのように具体化されていくのか、今後の予算編成が注目されます。(了)